



# とのやま



【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒

富士見台中学校HP

## ご理解ご協力いただきたいこと

過日は学校評価へのご協力ありがとうございました。結果等につきましては、後日改めて報告いたしますが、全体的に保護者の皆様が学校の教育活動を肯定的に評価していただいていることについて、学校としてうれしく思うとともに、教育活動を展開する上での励みとなっています。

また、今回の学校評価とは別に、日頃より保護者や地域の方々からはさまざまなご意見をいただいております。それらは貴重なご意見と受け止め、本校の教育活動の改善に活かすことで、より質の高い教育活動を展開できております。その結果として、生徒が着実に成長していると実感しております。

しかしながら、保護者や地域の方々からのご意見の中には、その対応が難しいものも少なくありません。それは、ご意見そのものだけでなく言動も含めてです。多くは、学校の教育活動への理解と協力を根底に努めて冷静にご意見をいただきます。しかし、時には次のようなことがあります。

威圧的な態度・恫喝 長時間にわたる訴え 同じ要求を執拗に繰り返す  
話し合い時の無断録音・録画 早朝や夜間の来校・電話対応(教員個人の携帯含)  
学校外(放課後)の出来事に関する苦情

これらの対応に多くの時間と労力を費やし、教職員が心身ともに疲弊し、本来行うべき業務に支障が出ています。その結果、生徒に質の高い教育を提供することができなくなる可能性もあります。

### 竹は節があるから強く、しなやかに

お子さんの話を聞いて、それを信じるのは親の気持ちとして当然です。しかし、時には一歩引いて冷静にお子さんの話を受け止めてください。子供に限らず大人も含めて、人は自分に都合のいいように物事を解釈し、自分に不利益があることに対して蓋をすることもあります。また、「嘘も方便」という言葉もあるように、状況によって言葉や行動を使い分けることも、生きていくうえでは必要なことです。だからこそ、お子さんの話は、寄り添ったり一歩引いたりしながら程よい距離感で受け止めてほしいです。「親」という字は「木の上に立って見る」と書きます。時に温かく、時に厳しく、子供が困難に直面した時に助けたい気持ちをグッと我慢をしながら、お子さんの成長を見守っていただきたいのです。

竹は節があるから強く、しなやかに伸びます。

そして、私たち大人も振り返ってみると、今の自分はこれまでの様々な経験が積み重なって今の自分を作り上げています。そう考えると、お子さんも学校や地域で経験することは今後の人生を歩んでいくうえですべて大切な学びとなっていきます。人とのかわり、付き合い方(距離感)も学校や地域で学ぶ大切なことです。お子さんが成人するまでに残された時間はわずかです。

### 持続可能な部活動であるために

部活動は、スポーツや文化芸術等の幅広い活動機会を得られるとともに、集団での活動を通じて、自主性や協調性の育成、人間関係の形成、挫折回復能力の向上等、生徒の人的成長を促す機会

であり、意義深い教育活動です。しかし、それは教員の献身的な勤務によって支えられており、今、ニュースでも取り上げられている教員の長時間勤務の原因の一つであります。また、指導経験のない部活動を担当する教員にとっては、多大な負担となっていることも事実です。校長として、本校の部活動が今後も持続可能なものであるためには、顧問の負担軽減を図る必要があると考えています。部活動は、学校教育の一環として行われる活動ではありますが、必ずしも教員が担う必要のない業務であります。つまり、部活動の顧問は教員の善意で行っているものです。そして、本校職員の勤務時間は8時20分から16時50分です。普段の部活動指導についても勤務時間を超えているうえ、朝練習や土日の指導はすべて勤務時間外の業務です。教員は自分の時間を削って、中には家族や地域の一員としての役割を家族に任せて、生徒のために指導していることをご理解いただき、応援並びにご協力をお願いいたします。教員の中には、専門外の競技顧問となったため、勤務時間外に自主的にその競技を学びに行っている者もいます。校長は本校の教員に対して、勤務時間外の活動である部活動の顧問をお願いしている立場にあります。顧問を引き受け、生徒のために全力を注ぐ姿勢に感謝するとともに、顧問として安心して指導に励むことができる環境づくりは校長の責務だと考えています。

部活動の方針及び指導に関しましては、顧問が責任をもって取り組んでおります。保護者の皆様は顧問の苦勞や子供たちの頑張りを理解し、ご支援いただきますようお願いいたします。顧問への信頼感無しに、子供たちが安心して部活動に取り組むことはできません。家庭や地域で、顧問批判のようなことを口にするのは厳に慎んでください。ご相談等ありましたら、管理職までお願いします。

#### 「身から出た錆」と「おかげさま」

2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さんは子どものころから病弱で、中学生になっても細身の体形で、「そんなじゃだめだ」と父親に言われて柔道部に入り、高校を卒業するまで6年間一所懸命に取り組んだそうです。山中さんにとって大きかったのがお母さんの存在です。山中さんが高校2年生の時、大学生に稽古をつけてもらったところ、負けるのが悔しくて受け身をせずについたため骨折したそうです。病院で治療を終えて帰宅すると学校から電話があり、山中さんのお母さんに「申し訳ないです」と謝る先生に対して、お母さんは、「いや、悪いのはうちの息子です。息子がちゃんと受け身をしなかったから骨折したに違いないので、気にしないでください。」と話したそうです。山中さんはその言葉を横で聞きながら、我が親ながら立派だと尊敬し直したそうです。

それ以来、山中さんは、何か悪いことが起こったときは、「身から出た錆」、つまり自分のせいだと考え、反対にいいことが起こったときは「おかげさま」と思うようにしたということです。

令和4年度に精神疾患で休職した教員は全国で6539人。全国的な教員採用試験の受験者数の減少。富士見市内外でも代員が見つからず、苦慮している学校もあります。そのような中、本校の教職員はみな一生懸命仕事に励んでいます。これは富士見台中学校の誇りです。そして、本校の教職員がはつらつとした姿で生徒の前に立つことが、生徒の健やかな成長につながると確信しております。

子供が安心安全な学校で仲間とともに多くを学び、心身ともにたくましく成長していくことは、学校・家庭・地域の願いです。子供が幸せで豊かな人生を送るために何が必要なのかということを中心に、今後も保護者や地域の方々には学校の教育活動に対してお力添えいただきたく存じます。学校・家庭・地域それぞれがそれぞれに敬意を払って、地域の子供をみんなで健やかに育てていきたいと考えております。学校としても、学校の役割をしっかりと果すことができるよう教職員一同研鑽に励み、全力で指導してまいります。引き続きご理解ご協力の程、よろしくをお願いいたします。